

八時間制であるが、實際六時間程度の高率しかあげてゐないのだから高率を増進するとしても問題ぢやない。

五月二十八日 大阪毎日新聞記事

結束固い職工 因島の争議

備後因島大阪鐵工所の労働争議は會社側が常に攻勢をとり臨時休業を單職工を解雇するなど嚴然たる態度を示し職長等は笹子工場長が提示した覚書の趣旨により職工を説き伏せに懸つたが何分争議團の結束が堅いので軟派の職工も直に就業の返事を任兼ねる有様で職長等は更に解決に対する最善の手段方法につき懇談すべく廿七日笹子工場長に會見を申込んだ。争議團では未援者もなく物資の應援もないが持久戦に対する方は案につき頻りに考慮を廻らし居り不穩の行動もない。尚工場長は最初から要求書に調印した約六百名(全職工の約半數)は全部解雇してもよいとの意見をも持つてゐる。

五月二十八日 大阪朝日新聞記事

飽くまで會社の高壓的手段に對抗すると力む労働同盟

盟の金政氏

大阪鐵工所因島工場の争議應援に來島せる労働同盟金政氏は争議團の本部に構へて殆ど因島四能工のリーダーとなつて對抗策を授け士氣を鼓舞してゐるが争議の経過について語る。

今回の争議は増給の件、解雇者手當増額の件その他待遇改善等であるが矢張り生活の不安を痛感するからである。職工も非常に自覺し争議の日を加へるにつれて結束を堅め真剣味を帯びてゐるか。頼母しい。會社は非常手段に訴へて續々四能工者を解雇してゐるが御無理御尤もオメオメ首になつておた日にはいくら首があつても足りない。最早や増給その他の要求問題ではない。飽くまで會社の高壓的手段に對抗せねばならぬ。會社は徒らに争議の種を蒔いてゐるやうな